

末を除く毎日8～10時間の保育を、2・3歳～6・7歳の児童を対象に行っている。幼稚園の平均クラス規模は15～20名であり、各クラスに2名の保育教員が配置されている。1996年には、3～6歳の子ども(109,487人)のうち、約41%が幼稚園で保育されている。また、学童を対象とする放課後センター(after-school centers)は、通常7:00頃から学校での授業開始されるまで、そして放課後18:00頃まで保育を行っている。対象となる学童の年齢は6～9歳が中心であるが、入所者枠に余裕があれば10～13歳の年長の学童も入所することができる。1997年時点では、6～9歳の児童の26%、10～13歳の学童の3%が放課後センターで保育されていた(Statistics Denmark 1998)。

6ヶ月から5・6歳(10歳のこともある)の子どもを同じ施設で保育する年齢統合型施設(age-integrated institutions)もまた、7:00から18:00まで一年を通じて開かれている。年齢統合型施設は、より広い年齢層の子どもの保育を同一施設で行うため、子どもが成長するにつれて保育施設を変わる必要がなく、また兄弟姉妹が同じ保育施設に通うことができるという意味で近年特に人気があり、1982年から1997年にかけて施設数は540から1600へと約3倍に増え、中でも1993年以降の増加は急速である。クラス規模は子どもの年齢構成によってばらつきがあるが、1996年度における施設あたりの平均園児数は64人であり、保育スタッフ一人あたりの担当児童数は4.8人である(Rostgaard and Fridberg 1998, p.124-125)。また、同年の0～2歳の児童の約8%、3～6歳の児童の24%が年齢統合型施設で保育されていた。

最後に、家庭保育所(保育ママ)についてみると、デンマークの家庭保育は保育者の自宅もしくは保育される児童の自宅において、そのほとんどがコミューンの認可と財政補助を得て行われている。家庭保育所の規模は保育者(保育ママ)が1人の場合は最大5人とされており、保育者が2人以上いる場合でも10人となっている。家庭保育所(保育ママ)は特に人口規模や人口密度が低い郡部や小都市で普及しており、そこで保育されている児童のほとんどは学齢前の子どもであるが、学齢の児童の保育も続けて行っている場合もある。家庭保育所の開園時間は通常5:30から18:00であり、児童が家庭保育所で過ごす平均時間は一日あたり7.25時間である。1996年時点で、0～2歳の児童の27%が、そして3～6歳児の4%が家庭保育所で保育されていた(Rostgaard and Fridberg 1998, p.126-127)。

このように、デンマークの公的保育施設における保育時間は通常7:00から18:00であり、延長保育や深夜保育はあまりみられない。このような延長保育や深夜保育サービスの不足分は、フレックスタイムの活用や母親のパートタイム就業などによって、親が就業時間を工夫するのが一般的である。保育料には、コミューンによってかなりな差があるが、通常は親の収入を基礎に算出される。ちなみに、1997年における保育料の親の負担額の平均は、保育所と幼稚園および年齢統合型施設の場合、月額約1,160クローネ、家庭保育所の場合1,580クローネである。また、兄弟が保育所に通っていれば保育料が軽減される「兄弟割引(sibling discount)」制度のあるコミューンも多い。また、保育サービスコストの負担については、親の負担はおよそ30%程度であり、残り(70%程度)をコミューンが

負担していると推計されている。1998 年度における 10 歳以下の児童の保育料へのコミュニケーションの平均補助額は 504 クローネである。

(3) スウェーデンとの比較からみた特色

以上のような家族政策がデンマーク社会・人口に与えた影響は大きい。まず、仕事と家庭の両立という家族政策の目標から、女性の就業との関係をみると、出産可能年齢（とくに出産のピーク年齢である 20 代から 30 代）の女性の労働力率は、1960 年代から 1990 年代前半まで大きく増加した。世話を必要とする幼い子どもをもつ母親の多くが労働市場に参加する背景には、有給出産・育児休業制度の拡充と多様な保育サービスがあると考えられる。第 2 節で述べたように、デンマークの出生率は 1983 年に、それまでの低下傾向から一転増加に転じ、出生率はそれ以降も比較的高い水準で維持されている。これには、出産・子育てと仕事の両立を援けることを目標とした同国の家族政策の整備・拡充、およびその運用に関して、労使協議と協調による労働時間の短縮やフレックスタイムによる就業を容易にした労働・雇用政策との緊密な連携が深く関わっていると考えられる。

デンマークの家族政策をスウェーデンのそれと比較すると、デンマークはスウェーデン同様、比較的高い負担で高い水準の家族福祉施策を行っていると言えるが、政策の内容や実施方法についてみた場合、スウェーデンとは異なった側面も見られる。両国の対比において、デンマークの家族政策の特徴をまとめると以下のようなになる。まず、スウェーデンの家族政策展開の主な視点として男女平等と男女共同参画（gender equality）が挙げられるのに対し、デンマークでは児童の福祉が強調される傾向がより強い。また、スウェーデンにおいては出産・育児休業について国家が一律の保障をしているのに対し、デンマークでは休業期間や所得保障の水準について、その一部が休業する親と雇用主との労使協議に委ねられている。その結果、デンマークでは、保育サービスについても、親の働き方（就業時間や時間帯）などに応じて公的保育サービスの種類を調整するのではなく、雇用主との協議・合意により親が働き方を調整する機会が多いことが指摘されている。

こうした両国の違いに見られるように、家族政策については、その水準や内容の豊富さだけでなく、行政と企業（雇用主）そして家族（親と子ども）との間の関係の枠組みをどのように構築するのかについて、様々な方法があることが分かる。

[参考文献]

国立社会保障研究所 1991 年『スウェーデンの社会保障』東京大学出版会。

津谷典子 1996 年「スウェーデンにおける出生率変化と家族政策」（阿藤誠編『先進諸国の人口問題』東京大学出版会）。

津谷典子 1997 年 「スウェーデンの家族政策」(阿藤誠・兼清弘之編『人口変動と家族』大明堂)。

日本労働研究機構 1998 年『諸外国における男性の育児参加に関する研究』JIL資料シリーズ No. 81。

丸尾直美・塩野谷祐一(編) 1999 年『先進諸国の社会保障 5 スウェーデン』東京大学出版会。

Christoffersen, Nogens Nygaard, 1990, "Naternity and Paternity Leave: The Role of Socioeconomic Status," *National Institute of Social Research Report* No. 90. Copenhagen: National Institute of Social Research.

Hoem, Britta, 2000, "Entry into Motherhood in Sweden: The Influence of Economic Factors on the Rise and Fall in Fertility, 1986-1997," *Demographic Research* Volume 2, Article 4. Rostock: Max Planck Institute for Demographic Research.

Hoem, Britta and Jan M. Hoem, 1996, "Sweden' Family Policies and Roller-coaster Fertility," *Jinko Mondai Kenkyu*, Vol.52, No.3-4.

Inter-Ministerial Committee on Children, 1996, *Danish Children in Numbers*, Copenhagen, The Inter-Ministerial Committee on Children.

Kalisch, David W., Tetsuya Aman and Libbie A. Buchele, 1998, "Social and Health Policies in OCED Countries: A Survey of Current Programmes and Recent Developments," *Labour Market and Social Policy Occasional Papers* No. 33, OECD.

Knudsen, Lisbeth B., 1999, "Recent Fertility Trends in Denmark - A Discussion of the Impact of Family Policy in a Period with Increasing Fertility," *Research Report 11*, Danish Center for Demographic Research, Odense University.

Knudsen, Lisbeth B. and Hanne Wielandt, 1996, *On the Road to the Wished-for Child*. Copenhagen: Frydenlund.

Kravdal, Oystein, 2000, "The Impact of Individual and Aggregate Unemployment on Fertility in

Norway," *Demorandum* No. 42. Oslo: Department of Economics, University of Oslo.

Ministry of Social Affairs, 1997, *Social Policy in Denmark 1997*, Copenhagen, Ministry of Social Affairs.

National Social Insurance Board, 1998, *Social Insurance Facts 1998*, Stockholm, National Social Insurance Board.

Rostgaard, Tine and Torben Fridberg, 1998, *Caring for Children and Older People: A Comparison of European Policies and Practices*. Copenhagen: Danish National Institute of Social Research.

Rostgaard, T., Mogens N. Christoffersen and Hanne Weise, 1999, "Parental Leave: Policy and Research. Review of the Danish Parental Leave Schemes." Copenhagen: Danish National Institute of Social Research.

Statistics Denmark, 1998, *Statistical Yearbook of Denmark 1998*. Copenhagen: Statistics Denmark.

Sundstrom, Marianne and Frank Stafford, 1992, "Female Labor Force Participation, Fertility and Public Policy in Sweden," *European Journal of Population*, Vol.8, No.3.

Nordic Social Statistical Committee, 1998, *Social Protection in the Nordic Countries 1996*, Copenhagen, Nordic Social-Statistical Committee.

Singelmann, Joachim, Yoshinori Kamo, Alan Acock, and Michael Crimes, 1996, "Dual-Earner Families and the Division of Household Labor: A Comparative Analysis of Six Industrial Countries," *Acta Demographica* 1884-1996: 159-178.

Swedish Institute, 1996, "Child Care," *Fact Sheets on Sweden* (August).

表1. 北欧4カ国における女性の年齢別出生率の推移：1960～1995/96年

年次	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	TFR
スウェーデン								
1960	17	129	137	83	39	12	1	2.17
1965	26	141	154	89	39	10	1	2.39
1970	34	121	127	69	28	6	0	1.94
1975	29	115	123	64	21	4	0	1.78
1980	16	96	124	71	25	4	0	1.68
1985	11	82	132	86	30	6	0	1.73
1990	14	99	156	110	41	7	0	2.14
1996	8	59	116	92	39	7	0	1.61
デンマーク								
1966	52	178	162	88	36	8	1	2.62
1970	32	130	131	66	25	5	0	1.95
1975	27	137	137	62	18	3	0	1.92
1980	17	102	118	55	16	2	0	1.55
1985	9	77	118	64	18	3	0	1.45
1990	9	71	135	87	27	4	0	1.67
1995	8	62	139	109	39	5	0	1.81
ノルウェー								
1967	42	178	168	103	52	15	1	2.80
1970	45	167	147	87	41	11	1	2.24
1975	40	135	129	64	24	5	0	1.98
1980	25	108	122	63	22	4	0	1.72
1985	18	94	126	71	23	4	0	1.68
1990	17	93	145	95	32	5	0	1.94
1996	14	75	136	107	41	7	0	1.90
フィンランド								
1966	35	138	137	89	47	17	2	2.32
1970	32	119	109	65	31	9	1	1.83
1975	28	106	114	60	25	6	0	1.69
1980	19	92	115	68	27	6	0	1.63
1985	12	97	143	79	30	7	0	1.64
1990	12	72	133	94	37	8	0	1.78
1995	10	66	130	105	42	8	0	1.81

資料：United Nations, Demographic Yearbook; Statistics Sweden (2000)
 Statistical Yearbook of Sweden 2000; Danmarks Statistik (1998)
 Statistisk Aarebog 1998.

注：女子1,000人当たりの率。

表2. 第一子、第二子、第三子出生時における母親の平均年齢：
スウェーデンとデンマーク、1970～1991年

年次	第一子	第二子	第三子
スウェーデン			
1974	24.4	27.3	29.8
1977	24.9	27.7	30.5
1980	25.5	28.3	31.0
1983	25.9	28.6	31.3
1986	26.1	28.9	31.5
1989	26.2	28.9	31.6
1991	26.5	28.9	31.5
1994	27.2	29.3	31.5
1997	27.7	30.0	31.9
デンマーク			
1970	23.4	26.0	28.6
1977	24.1	27.3	30.2
1983	25.2	28.1	31.0
1991	26.8	29.2	31.8
1996	27.5		
ノルウェー			
1970	23.6		
1975	24.2		
1980	25.2		
1985	26.1		
1990	25.5		
1995	26.5		
1998	27.2		
フィンランド			
1970	24.4		
1975	24.9		
1980	25.6		
1985	25.9		
1990	26.5		
1995	27.6		
1998	27.8		

資料：Statistiska centralbyran (1992) Befolkningsstatistik 1991, Del.4. Stockholm: Statistics Sweden; _____ (1998) Befolkningsstatistik 1997, Del.4. Stockholm: Statistics Sweden; Knudsen, Lisbeth B. Fertility Trends in Denmark in the 1980s. Copenhagen: Danmarks Statistik; Council of Europe (1999) Recent Demographic Developments in Europe, Strasbourg: Council of Europe.

表3. 北歐4カ国における女性のコウホート完結出生力：1930年以降の
出生コウホート

国名	女性の出生コウホート							
	1930	1935	1940	1945	1950	1955	1960	1965
スウェーデン	2.12	2.14	2.05	1.98	2.00	2.03	2.03	
デンマーク	2.36	2.38	2.24	2.06	1.91	1.84	1.90	1.89
ノルウェー	2.48	2.57	2.45	2.21	2.09	2.04	2.07	
フィンランド	2.46	2.29	2.04	1.88	1.85	1.90	1.95	

資料：Council of Europe (1999) Recent Demographic Developments in Europe, Strasbourg: Council of Europe.

表4. 北歐4カ国における婚外子割合(%)の推移：
1966～97年

年次	スウェーデン	デンマーク	ノルウェー	フィンランド
1960	11.3	7.8	3.7	4.0
1965	14.6	10.2	4.9	4.8
1970	18.4	11.0	6.9	5.8
1975	32.4	21.7	10.3	10.1
1980	39.7	33.2	14.5	13.1
1985	46.4	43.0	25.8	16.4
1986	48.4	43.9	27.9	18.0
1987	49.9	44.5	30.9	19.2
1988	50.9	44.7	33.7	20.6
1989	51.8	46.1	36.4	23.0
1990	47.0	46.4	38.5	25.2
1991	48.2	46.5	40.9	27.4
1992	49.5	46.4	42.9	28.9
1993	50.4	46.8	44.4	30.3
1994	51.6	46.9	45.9	31.3
1995	53.0	46.5	47.6	33.1
1996	53.9	46.3	48.3	35.4
1997	54.1	45.1	48.7	36.5
1998		44.8	49.0	37.2

資料：United Nations, Demographic Yearbook; Statistiska centralbyran (1992) Befolkningsstatistik 1991, Del.4.;
 _____ (1998) Befolkningsstatistik 1997, Del.4.;
 Danmarks Statistik (1999) Befolkningens bevaegelser 1997;
 Council of Europe (1999) Recent Demographic Developments
 in Europe, Strasbourg: Council of Europe.

表5. 北欧4カ国の16～64歳人口における男女別労働力率と
7歳未満の子をもつ女子の労働力率の推移：1960～98年

年次	男子	女子	7歳未満の子の母親
スウェーデン			
1963	93.2	54.0	37.9
1968	91.3	56.7	41.8
1973	89.9	63.9	53.8
1978	90.6	73.5	68.7
1983	90.2	80.6	82.0
1988	85.7	81.5	85.8
1990	86.6	82.3	86.9
1993	80.9	77.2	
1996	80.0	75.6	78.4
1998	79.0	73.9	78.0
デンマーク			
1960	99.5	43.5	
1968	93.5	56.4	
1974	89.9	63.2	
1987	88.2	76.8	
1990	89.6	78.5	
1993	86.9	78.3	
1996	85.1	74.1	
ノルウェー			
1960	92.2	36.3	
1965	89.2	37.7	
1974	86.7	50.0	
1987	87.9	72.3	
1990	84.5	71.2	
1993	82.0	70.8	
1996	84.5	74.1	
フィンランド			
1960	91.4	65.6	
1968	84.4	60.1	
1974	80.4	65.5	
1987	81.4	72.9	
1990	80.6	72.9	
1993	77.6	70.0	
1996	77.2	70.3	

資料：Statistiska centralbyran, Statistisk årsbok for Sverige (Statistical Yearbook of Sweden); Organisation for Economic Co-operation and Development (1999) OECD Historical Statistics 1960-1997.

表6. 北欧4カ国における出産可能年齢の女性の年齢別労働力率の推移：
1960～95年

年次	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49
スウェーデン							
1960	47*	57	42	35	35	36	37
1965	41	56	45	41	46	49	49
1970	30	56	55	53	59	63	63
1975	47*	66	64	65	71	75	75
1980	29	71	74	75	79	83	83
1985	20#	78	83	84	86	88	88
1990	41	80	87	90	92	94	93
1997	26	60	77	81	86	88	88
デンマーク							
1960	67	59	39	34	36	38	38
1965	61	62	46	43	45	48	58
1970	48	68	59	55	57	57	55
1976	29	74	74	71	71	70	66
1981	45	86	87	85	83	81	76
1985	50	86	90	90	89	87	83
1991	64	82	85	90	91	91	87
1997	70	78	81	86	87	88	84
ノルウェー							
1960	43	48	26	19	18	20	22
1970	38	52	34	32	34	32	34
1980	36	65	62	69	74	78	79
1990	35	68	75	78	81	82	82
1995	32	68	77	82	85	85	85
フィンランド							
1960	46	60	59	58	62	61	60
1970	39	64	71	71	75	75	71
1976	23	58	70	-----	75	-----	70
1980	16	61	74	77	82	83	80
1985	24	63	81	85	87	89	87
1993	26	60	76	81	86	90	89
1997	30	60	76	81	87	89	90

資料：ILO, Yearbook of Labour Statistics; ILO (1997) Economically Active Population 1950-2010; Statistics Sweden (2000) Statistical Yearbook of Sweden 2000; Danmarks Statistik (1998) Statistisk Aarebog 1998.

注：女子1,000人当たりの率。*--16～19歳の率。#--10～19歳の率。

表7. 就業者とフルタイム就業者に占める女子割合および女子就業者におけるパートタイマー割合の推移：北欧4カ国 1963～90年

年次	女子比率 (%)		女子就業者の パートタイム割合
	全就業者	パートタイム就業者	
スウェーデン			
1963	36.0	27.8	38.8
1968	37.1	27.6	38.3 ²⁾
1973	40.0	28.7	38.8
1976	43.2	90.0	42.2
1978	44.6	88.3	45.2
1980	45.6	86.7	46.0
1983	46.8	86.3	45.4
1986	47.9	84.5	45.6
1988	48.1	85.2	43.2
デンマーク			
1973			
ノルウェー			
1982	41.4	77.3	48.8
1984	42.6	77.3	47.8
1987	44.1	77.6	45.1
フィンランド			
1976	46.5	73.3	10.4
1978	47.1	75.9	10.0
1980	46.7	74.8	10.7
1982	47.5	72.0	11.6
1984	47.7	71.6	12.5
1987	48.0	68.6	11.4

資料出所：OECD, Labour Force Statistics; Sveriges officiella statistik, Statistik årsbok Sverige.

注：1) パートタイマーとは通常の労働時間が週35時間未満の者をさす。
2) 1970年の値。

表 8. 北欧 4 カ国における失業率 (%) の推移 : 1960~98年

年次	スウェーデン	デンマーク	ノルウェー	フィンランド
1960			0.9	
1965			0.9	
1970	1.5		0.8	
1975	1.6		1.2	
1980	2.0		1.3	
1985	2.8		2.5	
1986	2.2		1.8	
1987	1.9		1.5	
1988	1.7		2.3	
1989	1.5		3.8	
1990	1.6		5.3	
1991	3.0		5.7	
1992	5.2		6.0	
1993	8.2		6.1	
1994	8.0		5.5	
1995	7.7	7.2	5.2	
1996	8.1	6.9	4.9	16.0
1997	8.0	6.1	4.1	14.5
1998	6.5		3.2	

資料 : Statistiska centralbyran, Statistisk årsbok for Sverige (Statistical Yearbook of Sweden) various years; Nordic Council of Ministers (1998) Nordic Statistical Yearbook 1998; Statistics Norway (1994) Historical Statistics 1994.

表9. 男女別週平均就業時間と家庭内労働時間および家庭内労働における男性の
分担割合：北欧諸国と他の主要国

国名	就業時間		家庭内労働		男性の分担(%)		
	女性	男性	女性	男性	家事	育児	全体
スウェーデン							
1990/91	27.3	41.1	33.2	20.2	39	28	38
デンマーク							
1987	21.8	35.0	22.5	11.2	34	36	33
ノルウェー							
1972	14.4	40.0	37.2	6.9	15	21	15
1980-81	17.1	34.2	29.8	9.2	22	30	24
1990	19.3	30.8	30.6	18.3	39	29	38
フィンランド							
1979	21.8	30.0	25.6	11.7	32	23	31
1987	23.1	31.7	24.4	12.6	35	25	34
日本							
1976	23.5	42.4	23.1	0.9	4	--	4
1981	22.3	42.5	23.7	0.9	4	--	4
1986	21.2	41.8	24.3	1.3	5	6	5
1991	19.5	40.8	27.1	2.8	9	12	9
イタリア							
1988/89	10.6	27.9	32.8	7.6	19	25	19
スペイン							
1991	11.4	29.4	52.4	11.2	19	13	18
アメリカ合衆国							
1965	18.7	48.3	37.8	10.0	21	18	21
1975	16.7	37.6	32.0	10.9	26	23	25
1986	24.5	41.3	31.9	18.1	36	28	36
カナダ							
1971	18.8	41.2	35.7	10.4	23	19	23
1986	17.5	32.9	28.9	13.5	33	25	32
1992	18.5	31.5	28.9	15.6	36	30	35
オーストラリア							
1987	16.9	35.5	33.0	15.3	34	22	34
1992	14.7	31.4	34.0	17.5	36	22	36

資料：United Nations (1991) The World's Women 1970-90; _____ (1995) The World's Women 1995.

表10. 子どもの有無および年齢からみたスウェーデン男女の一週間の就労
および家事・育児労働平均時間数：1984年

労働の種類	子ども なし	一番下の子の年齢			
		0-2	3-6	7-12	13-17
男性					
就労	22.9	31.7	34.4	38.4	40.3
家事	7.1	8.2	6.9	6.7	6.4
家屋・庭の修理営繕	5.1	4.9	5.9	5.7	5.2
育児・子育て	0.3	8.2	5.6	1.9	0.4
女性					
就労	15.8	11.8	20.9	22.1	25.5
家事	19.3	21.5	19.0	23.1	21.4
家屋・庭の修理営繕	2.2	0.5	1.2	1.2	1.7
育児・子育て	0.6	13.4	10.6	4.1	0.6

資料出所：L. Flood and A. Klevmarken, "Arbete och fritid. Svenska hushalls tidsahvandning 1984 (Work and Leisure: Time Use of Swedish Households 1984)," in A. Klevmarken et al. (eds), Tid och rad. Om hushallens ekonomi, Industrial Institute for Economic and Social Research (1990).

注：16～64歳の男女人口を対象として算出された値。

表11. デンマークの家族（児童家庭）政策一覧

-
- 1) 出産・育児休業制度
 - a) 出産休暇 (maternal leave)
 - b) 育児休暇 (parental leave)
 - c) 出産後父親休暇 (paternal leave)
 - e) 保育(看護)休暇 (child care leave)

 - 2) 各種手当
 - a) 一般家族手当 (general family allowance)
 - b) 普通児童手当 (ordinary child allowance)
 - c) 付加児童手当 (extra child allowance)
 - d) 特別児童手当 (special child allowance)
 - e) 多胎出産手当 (multiple birth allowance)
 - f) 養子縁組手当 (adoption allowance)
 - e) 養育援助手当 (maintenance payment)
 - f) 住宅給付 (housing allowance)

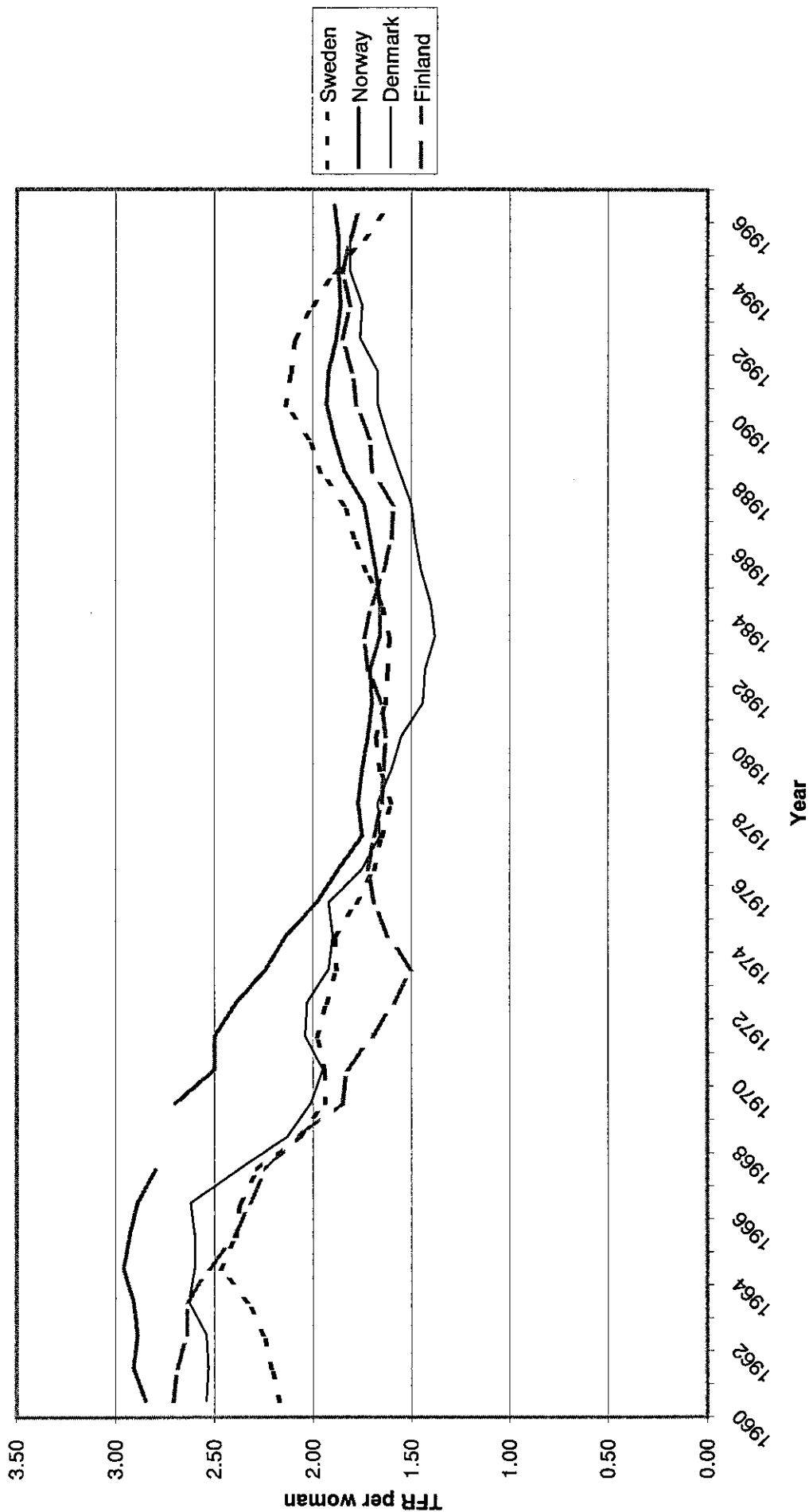
 - 3) 保育サービス
 - a) 低年齢児童保育所 (creches)
 - b) 保育所 (nursery schools)
 - c) 幼稚園 (kindergarten)
 - d) 放課後センター (after-school centers)
 - e) 年齢統合型施設 (age-integrated institutions)
 - f) 家庭保育所 (保育ママ) (family day-care)
-

表12. デンマークの保育サービスの種類と内容

保育の種類	児童年齢	保育時間	クラス規模	保育スタッフ数
就学前学校				
a) 低年齢児童保育所	0-2	7:00-18:00	10-12人	3人
b) 保育所	3-6	7:00-18:00	10-12人	3人
c) 幼稚園	2・3-6・7	7:00-17:00	15-20人	2人
d) 年齢統合型施設	0-5・6/10	7:00-18:00	(スタッフ1人当たり5人)	
学童保育所(放課後センター)	6-9/13	7:00-18:00	(状況に応じ適宜)	
家庭保育所(保育ママ)	0-6	5:30-18:00	(スタッフ1人当たり5人まで)	

資料出所: Swedish Institute, Fact Sheets on Sweden: Child Care in Sweden (1992).

Changes in TFR: 4 Nordic Countries 1960-1996



付録1：2000年度の現地訪問調査

2000年8月6日～19日の12日間、ノルウェーとデンマークを訪問し、現地の研究者との打ち合わせ、研究機関や中央統計局の訪問、および資料収集を行った。この訪問の主要目的は、両国の出生力変動、就業および家族政策についての資料・データを収集し、また両国の人口学研究者および家族政策担当者にとって、ヒアリングを行うためであった。この訪問旅行の詳しい日程と具体的内容は以下のとおりである。

日付	行程	用務
8月6日(日)	成田発オスロ着	
7日(月)PM		オスロ大学経済学部(人口学)Oystein Kravdal氏と面会、ノルウェーの子育て支援政策についてヒアリング。
8日(火)AM PM		ノルウェー中央統計局図書館にて文献・資料の調査。 Marit Rosen氏と面会。ノルウェーの出生力変化、女性就業、および家族政策についてヒアリング。
9日(水)AM PM		ノルウェー中央統計局にて Ronsen氏および Helge Brunborg氏にノルウェーの家族政策および労働政策についてヒアリング、また寿命や出生率の日本との比較について討論。 ノルウェー中央統計局食堂にて、日本の少子化とジェンダー関係および社会政策についてセミナー。
10日(木)		ノルウェー中央統計局図書館にて統計データの調査・収集。

日付	行程	用務
11日(金)		オスロ大学で開催中の International Congress of Historical Sciences の Book Exhibit にて、北欧の社会福祉政策史に関する文献の調査。
13日(日)	オスロ発コペンハーゲン着	
14日(月)		デンマーク中央統計局資料室にて、文献・資料の収集。
15日(火)		オーデンセ大学人口研究センターを訪ね、Lisbeth Knudssen 氏から、同国の出生力および人口データの central registration system についてヒアリング。
16日(水)		オーデンセ大学人口研究センターにて、Tommy Bengtsson 氏から、スウェーデンの労働政策と移民政策および雇用についてヒアリング。
17日(木)		デンマーク中央統計局に Lisbeth Knudssen 氏(客員研究員)を訪ね、人口・家族政策に関する資料を提供され、人口届け出統計を使つてのパネル・データについてヒアリング。
18日(金)	コペンハーゲン発	
19日(土)	成田着	

付録 2

Fertility, Employment, and Use of Family Policy-related Services in Sweden, 1980-1999

「スウェーデンにおける出生動向、就業、家族政策支援の利用、1980-1999年」

Britta Hoem

Program Director, Statistics Sweden

ブリッタ・ホエム

スウェーデン中央統計局プログラム部長

要約

本研究ではまず、スウェーデンのコミュン (*kommun*, わが国の市町村に相当) を単位として、出生力水準の代表的指標である合計特殊出生率 (TFR)、女性の年齢別就業率、家族政策の主要な柱の一つである公的保育サービスの供給と利用に関する 1980 年から 1990 年代終わりまでの時系列データ・ベースを構築した。次に、このコムニオン・レベルの時系列データを用いて、出生率の動向、女性の就業率、および保育サービスの需給の関係を分析した。

分析の結果、以下のような知見が得られた。まず、出生同国は女性の就業率とプラスの相関関係があり、1980 年代後半に女性の就業率と出生率はともに急速に増加し、1990-91 年には出生率はピークを示した。しかしその後 1990 年代には、女性の就業率と出生率はともに平行して低下する傾向が見られた。さらに、出生率は人口規模が大きく人口密度の戦いコムニオンほど低い傾向が見られた。しかし、このような出生率と女性就業率の低下傾向にもかかわらず、保育サービスの供給と利用は、1980 年代半ば以降 1990 年代後半まで増加傾向にあり、停滞・漸減傾向をみせたのは 1990 年代終わり頃のことであった。また、このような公的保育サービスの増加の下で、家庭保育所 (保育ママ) による保育は減少し、その分保育所による保育が増加した。ここから、スウェーデンにおける公的保育サービスは、出生動向や女性の就業率の変化にむしろ追従する形で推移しており、また出生率や女性就業の変化に即反応するというよりも、子供やその親の福祉と *well-being* を考慮して実施されていることが示唆された。